

中国復旦大学での「mic-j」サイトの開設⁽¹⁾

西郡 仁朗

【要旨】

インターネット上の視聴覚リソースは容量が大きく遠隔地からのアクセスに時間がかかるのが難点である。この問題を解決する一つの方法は、学習者が高速でアクセスできる場所にサイトを立てることであろう。今回、その試みの一つとして日本語学習用サイト「mic-j」を中国上海・復旦大学にも開設し公開を開始した。同大学は中国の大学間ネットワークはもとより、上海地域の高速ブロードバンドネットワークの中核にあり、容量の大きい視聴覚リソースでも、LAN内はもちろんキャンパス外からも高速アクセスが可能である。

教育研究交流のカウンターパート探し、サイト開設の経緯及び技術的な問題、復旦大学での一般学生のインターネット利用状況と「mic-j」サイトの利用可能性について記す。

1. インターネット上の視聴覚リソースの問題点

現在の外国語教育ではCALLやWB Tなど、マルチメディアとインターネットを利用した教育方法の開発に注目が集まっている（大岩等，2002など）

「mic-j」サイト⁽²⁾は、こうした流れの中で2001年6月に公開を開始したものであり、日本語学習教育用視聴覚リソースとインタラクティブなマルチメディア自学自習教材を集積してきた。リソースの制作には各所の日本語教育関係者・学生、大学院生の協力を得ており、公開リソースは誰でも自由に試用することができる。いわばこの分野での「社会主義」的なリソース提供のサイトとなることが標榜されている。しかし、このサイトを有効利用するためには、すでに指摘したように（西郡A，2002）いくつかの問題がある。

第一の問題は、日本語教育関係者のマルチメディア操作能力の向上である。各リソースはそのままでも試用できるが、「インタラクティブ」「編集・拡張」的な応用ができないと本当に有効な利用ができない。

第二に、通信速度の問題がある。現在のネットワーク回線では、海外から本学のサイトにアクセスし、動画・音声のやりとりを高速で行うのは難しい。

第三に、リソースがこのまま拡大していった場合の有効な検索方法の問題がある。

本稿で報告するのは、主に第二の問題点へ対処であり、海外の大学にミラーサイトを置き、少なくとも大学のLANとその周辺では高速通信を可能しようというものである。また、これは今後第二の問題にも直接つながっていく。

2. カウンターパート「復旦大学 国際関係与公共事務学院」

復旦大学は北京大学と並ぶ中国の名門大学で 1905 年に設立された国家教育委員会直属の重点大学である。大学名は中国古典「尚書」から採られている。経済学院、人文学院など八つの学院（学部に対応）、34 学系（学科に対応）、21 の研究センター、29 の研究所がある。学部生は1 学年約 4,000 人であり、そのうち半数は上海地域からの進学、残り半数は中国全土からの選抜となっている。上海地域の高校生は一学年 10 万人程度おり、優秀な学生は大部分が復旦への進学を希望するそうであるから、極めて単純な計算だが 10 万人の中の 2,000 人という相当の狭き門である。

今回のマルチメディア素材のインストールと今後の継続的な教育研究交流のカウンターパートとなったのは、同大学国際関係与公共事務学院（School of International Relation and Public Affairs）である。この学院は、中国とアメリカ・日本・韓国・欧州・ロシア・北欧・ラテンアメリカとの間の政治・経済・思想的関係、国際間共同事業を研究・教育していくところである。学部生には二つの外国語の履修が義務づけられており、全員の第一外国語は英語である。第二外国語のうち最も履修者が多いのは日本語で、専攻課程の全 120 名中 50 名が履修している。

復旦大学には人文学院外文系（外国語・外国文学科）に日本語教研室（学科内の専攻）があり、日本語を専門とした教員・学生もいる。また、キャンパス内に日本研究中心（センター）も置かれており、日本関係・日本語関係の図書室・資料室も整備されている。つまり、日本語教育に関わる部署は何力所かあったが、マルチメディア関係のカウンターパート探しとなると語学関係以外のいくつかの要件があった。

第一に、サーバーを自由に使わせてもらえるかという問題である。現行の「mic-J」の内容は視聴覚リソースのファイルが多く、既に 2GB を越えている。これは公共サーバ

一の一般登録ユーザーに許容される容量ではない。「mic-J」の容量は今後も増えていく見込みであり、またCGI系の処理も増加する予定なのでかなり自由にサーバーが使えることが必要であった（自前のWEBサーバーを持ち込むことも検討した）。

第二の問題は、「mic-J」サイトの運営と更新に協力的な態勢をとってもらえるかどうか、また、インターネットとマルチメディア関係の技能を持つ人材がいるかどうかであった。

これらの条件を十全に満たしていたのが国際関係与公共事務学院であった。同学院は独自のサーバーを運営しており、海外の大学とのインターネットによる交流も盛んである。日本の慶應義塾大学（藤沢キャンパス）総合政策学部との間で、ネットワークを通じた共同授業も行われている。また、本年度全教員にパーソナル・コンピュータが配布され、教育活動での利用が強く奨励されており、当方からの申し出は、カウンターパート側としてもある意味「渡りに船」だったようである。種々の交渉の結果、サイトを丸ごと移設して協力的な態勢をとってもらえることが可能となった。また、同学院のWEBサイトをほとんど一人で管理しているコンピュータ技能に長けた講師がいて、技術的な意味でも全く問題なく今後の交流と更新ができることとなった⁽³⁾。

3. 二つのURL

復旦大学国際関係与公共事務学院のWEBサイトは下記二つのURLを有する。

<http://www.sirpa.fudan.edu.cn/>

<http://www.sirpa.fudan.sh.cn/>

このうち上のeduの方は従来からのURLであるが、下のshの方には少々説明が必要であろう。これは最近ネットワーク構築が進められている上海地域の新たなブロードバンド回線網である（大学関係者は上海”sh”のスーパーハイウェイ”sh”と呼んでいた）。日本国内の筆者の自宅から回線が混雑していない夜間に接続すると（ケーブルテレビの10Mbps回線経由）動画のQuickTimeストリーミング（約7MBのもの）すら瞬時に始まったのには驚いた。おそらく、復旦大学のLAN内はもとより、上海地域での有

力なLANでは、ほとんどストレスを感じることなく視聴覚リソースに接続できると推測される。中国のその他の地域からのアクセスがsh経由でどの程度高速になるかについて体系的で詳細な資料はないが、北京語言学院のLANからのアクセスでは、1MB台のMP3ファイルの再生開始までに数秒から10数秒程かかったという連絡が入っている⁽⁴⁾。速いと言えば速いが、ストレスを全く感じないわけではないだろう。

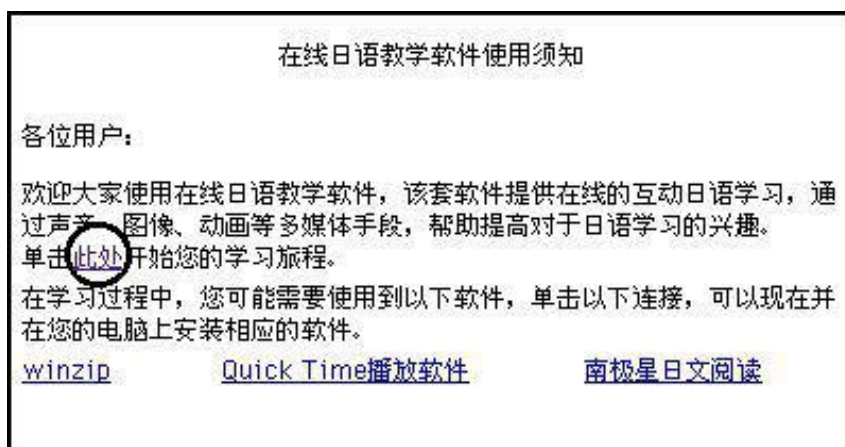
図—1に「復旦大学国際関係与公共事務学院」のWEBサイトのトップページを示す。



図—1. 「復旦大学国際関係与公共事務学院」のWEBサイト・トップページ

<http://www.sirpa.fudan.edu.cn/> または <http://www.sirpa.fudan.sh.cn/>

サイトのトップページは定期的に更新されており、図-1は2002年11月下旬段階でのものである。矢印の先の部分に「オンライン日本語自習サービス開通」とある。ここからリンクしているのが図—2の「オンラインで日本語を学ぶために必要なソフトウェア」のページであり、日本語フォントとQuickTime（動画再生に必要な無償ソフトウェア）のダウンロードの方法が説明されている。丸印のところをクリックすると「mic-J」復旦サイトのトップページにつながる（図—3）。



图—2 . 「オンラインで日本語を学ぶために必要なソフトウェア」のページ

<http://www.sirpa.fudan.edu.cn/academic/jalearn/welcome.htm>

または <http://www.sirpa.fudan.sh.cn/academic/jalearn/welcome.htm>



图—3 . 「mic - J」復旦サイトのトップページ

<http://www.sirpa.fudan.edu.cn/academic/jalearn/>

または <http://www.sirpa.fudan.sh.cn/academic/jalearn/>

4. 復旦大学での一般学生のインターネット使用状況

復旦大学ではすべての学生にネットワーク利用のIDが発給されており、またコンピュータ・リテラシーも行われているため、程度の差はあるにせよほとんどの学生がパソコンを日常的に使用している。以下に外文系の学部四年生（日本語専攻）2名とともに取材した一般学生のインターネット使用状況を記す。

復旦の学生が最も頻繁に利用しているのは、大学近辺のインターネットカフェ(网巴:wang ba)である。料金によって3段階のランクがあるが、このランクはネットワーク環境によるものではなく、カフェの調度品や飲み物のサービス、パソコンのスペックによるという。どのカフェもADSL回線を利用しているようだ。中程度のランクのカフェを訪問したが、中国のメーカー製のパソコンにWindows 98, Microsoft Office, Internet Explorerなどが搭載されていた。海外のサイトへのアクセスも可能であり、日本語フォントも使用できる。フォントや無償ソフトウェアは比較的自由にダウンロードすることができ、すぐに消去されることはないようである。利用者の中には、いつも同じマシンを使用し、自分なりにカスタマイズする場合もあるという(ただし、いつ初期化されるかは分からない)。日本の「mic-J」サイト、トップページへのアクセスは数秒で完了したが、視聴覚リソースファイルとなるとそうは行かず2.6MBの動画ストリーミングの開始までに4分ほどかかった。因みに、利用料金は時間帯によって異なり、一時間2~10人民元(日本円で32円~160円)程度である。

大学キャンパス内で一般学生が利用可能なのは「現代教育技術中心(センター)」及び学院内に設置されたマシンである。「現代教育技術中心」は利用者登録をして一定額の使用料を払えば一学期の間いつでも利用することができる。また、学外者にも公開されている。ここでも中国のメーカー製のパソコンにWindows 98, Microsoft Office, Internet Explorerなどが装備されていた。しかし、かなり混雑しており管理も厳しいところであった。学外のサイトにアクセスするためには利用者自らがPROXYの設定を行わなければならない、多少の知識が必要である。ソフトウェアのダウンロードは原則的に不可で、起動時に初期化されてしまうためデータの保存はフロッピーなどで行うことになる。日本語フォントがインストール済みのマシンと入っていないマシンがあった。文系の学院内のマシ

ンも大体似たような管理体制だが、ソフトウェアについては多少自由度が高く、利用目的が明確で管理者の許可があればインストール可能とのことである。日本語教育と関わる部署のマシンには日本語フォントがインストールされていた。センター及び学院のマシンは100/10Base-TでLANに接続されており、学内のサーバーとは高速の通信が可能であった。

復旦大学は全寮制で学部教育を行っている。キャンパス近くの三カ所にある寮エリアのうち2つのエリアの建物群は最近改築が完了し、すべての部屋に電話回線が入っている(残りの1エリアの寮はかなり老朽化しており一年生が住むことになっている)。自室にパソコンを所有している学生はそう多くはないが、電話回線が入っているのでADSLによる相当高速な接続が可能となっている。パソコンを所有するある学生の居室を訪問したが、インターネットカフェと同等の速度での通信が可能であった。無論、パソコンに何をインストールしても構わず、何の制限もなく使用することができる。

以上の調査で確認されたのは、どのマシンもADSL程度以上の高速通信が可能であり、大学内のサーバーにデータがあれば、キャンパス内及び近隣のカフェ、学生寮では視聴覚リソースのファイルもストレスのない速度での再生が可能であるということである(多数が同時にアクセスする場合はこの限りではない)。また、どのマシンもWindows98以上のシステム構成となっているので、フォントがダウンロードされていれば日本語も問題なく見ることができる。「mic-J」ではWindows95及びそれ以前のOSで日本語フォントが利用できない環境も想定し、イメージ・フォントも併用しているが、復旦大学近辺ではその配慮は無用のようである。

5. mic-J 復旦サイトの内容

復旦大学のmic-Jサイトは次のような内容となっている。一部は西郡A(2002)で報告したが、新たに加えられたものや改良された点もあるので以下に概略を示す。

5-1. 聴解クイズ- レベル1

聴解行動・日本語コミュニケーションの特徴、語彙と文型の統制などを踏まえて200

2年度新たに制作された。一応のモデルとしたのは日本語能力試験であり、通常「上級」といわれる1級レベル相当となるよう配慮されている。問題の詳細と分析については西郡・宮田(2003)を参照されたい。2002年11月現在39問で音声ファイルにはMP3が使用されている。

5-2. 初級会話『あうんで行こう!』WEB版

市販のビデオ教材『あうんで行こう!』をWEB版としたもので、著作権者である(株)ジャパンライムの厚意により2002年度に公開が実現した。インタラクティブ・クイズとダウンロード用のページからなる。詳細と試用結果については西郡・尾崎(2003)を参照されたい。クイズ48問、ダウンロード可能な動画ファイル192等からなっている。動画ファイルにはQuickTimeMOVとAVIが併用されている。

5-3. 聴解クイズ- レベル2

上記レベル1同様、聴解行動・日本語コミュニケーションの特徴、語彙と文型の統制などを踏まえ、日本語能力試験をモデルとして制作された。通常「中級」といわれる2級レベル相当となるよう配慮されている。2001年度から公開されていたが、今年度インタラクティブ・クイズが新規に制作された。2002年11月現在62問で音声ファイルにはMP3が使用されている。

5-4. 擬態語

擬態語が直感的に理解できるように制作された動画と、日本語・英語・中国語・韓国語による解説からなり、2001年度から公開されてる。2002年11月現在21語で、動画ファイルにはQuickTimeMOVとAVIが併用されている。

5-5. 自動詞・他動詞

自動詞と他動詞の対立のあることばを、動画と音声で紹介している。言語文化研究所制作のCD-ROM教材『日本語玉手箱』の動画部分を許可を得てWEB版とした。2001年度から公開されており、2002年11月現在7対14語で、38の動画ファイルに

は QuickTimeMOV と AVI が併用されている。

5-6. 写真集

日本語の教材を作るときに便利な写真とキーワードが掲載されている。キーワード検索機能付きで 2001 年度から公開されている。内容は日々更新される性質のものであるし、個々の写真ファイルは大容量ではないため、復旦大学にデータは置かず、日本のサイトへリンクする構造となっている。

5-7. 敬語

相手・場面・話題の人物によって変わる敬語表現の動画とスクリプトで、2001 年度から公開されているが、2002 年度新作が 3 場面加わった。敬語使用の分類は『敬語表現』（蒲谷・川口・坂本、1998）に準拠している。2002 年 11 月現在 8 場面で（本学のサイトではさらに 8 場面・23 スキットが加えられている）、動画ファイルには QuickTimeMOV と AVI が併用されている。

5-8. 自然会話データ

偶然の初対面会話のデータと分析方法を示したもので、2001 年度から公開されている。詳細は西郡 B（2002）を参照されたい。

6. 今後に向けて

復旦大学でのサイト公開後、「mic-J」全体へのアクセス数はかなり伸びている⁽⁵⁾。実際に利用されていることは間違いないが、どこでどのように利用されているかについては詳しい情報がない。また、本サイトは、自学自習できる内容ではあるが、教師や学習者がカスタマイズしていくとより大きな効果が期待できる。西郡（2002）及び本稿で述べたように、当面必要なのは視聴覚リソースの量的充実、質的分析及び日本語教育関係者の IT 技能の向上である。また、このままりソースが増えていった場合、現在のようなり

ソース提示方法だけで有効な閲覧と検索が出来るかどうかという問題もある。こうした問題すべてに対処していかねばならず、相当の労力が必要であるが、他の日本語教育関係者及び教育工学関係者との連携により克服していけると考えている。(了)

(1)本研究は以下の助成を受けている。2002-2003 年度文部科学省科学研究費・基盤研究 A 「日本語中上級学習用マルチメディア素材のデータベース化及び中国での利用展開」(研究代表者：西郡 仁朗)

(2)本学での URL は、<http://japanese.human.metro-u.ac.jp/> 国内では言語文化研究所にミラーサイトが置かれている。<http://www.naganuma-school.or.jp/mic-j/>

(3)日本語教育上の窓口は同学院・胡青心氏、情報処理関係上の窓口は同・沈逸氏になっていただいた。記して感謝する。現在は研究室単位での交流である。

(4)同大学滞在中の荻野綱男氏に調査をお願いした。記して感謝する。

(5) 米国オフィシャル・カウンター digits.com を採用している。

引用文献

大岩元 編(2002)『外国語教育のための Web サーバー/モバイル技術を活用した教育環境の基礎的研究』科学研究費(基盤研究 B(1))報告書(研究代表者：大岩元)

蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店

西郡仁朗 A(2002)「日本語教育用 AV リソース公開サイト'm i c - J'について」『日本語研究』東京都立大学国語学研究室, 117-134

西郡仁朗 B(2002)「自然会話データ『偶然の初対面』の公開 ~ その方法論について ~ 」『人文学報』330号, 東京都立大学人文学部, 1-18

西郡仁朗・尾崎和香子(2003)「日本語初級会話『あうんでいこう!』WEB版の公開と試用結果」本『人文学報』東京都立大学人文学部

西郡仁朗・宮田剛章(2003)「上級レベル聴解素材のWEB公開と項目分析による素材の評価」『日本語研究』東京都立大学国語学研究室, (印刷中)